

# 用語の解説

- 【全 体】…………… - 1 -
  - ・ 環境影響評価（環境アセスメント）
  - ・ 方法書
  - ・ 準備書
  - ・ 評価書
  - ・ 環境保全措置
  - ・ 環境基準
- 【事業計画関連】…………… - 1 -
  - ・ ストーカ式焼却炉
  - ・ 計画ごみ質
  - ・ ろ過式集じん器（バグフィルタ）
  - ・ 触媒反応塔
  - ・ プラットホーム
  - ・ ごみピット
  - ・ ホッパ
  - ・ ごみクレーン
  - ・ 灰出し設備
  - ・ エアカーテン
- 【大気質関連】…………… - 2 -
  - ・ 静穏
  - ・ 一般環境大気測定局
  - ・ 自動車排出ガス測定局
  - ・ 2%除外値
  - ・ 年間98%値
  - ・ ppm
  - ・  $m^3_N$
  - ・ 硫黄酸化物 ( $SO_x$ )
  - ・ 窒素酸化物 ( $NO_x$ )
  - ・ 浮遊粒子状物質 (SPM)
  - ・ 塩化水素 (HCl)
  - ・ ダイオキシン類
  - ・ 降下ばいじん
  - ・ ベンゼン
  - ・ 放射収支量
  - ・ バックグラウンド濃度
  - ・ プルーム式
  - ・ パフ式
  - ・ 三次元マスコンモデル
  - ・ 移流パフモデル
  - ・ 最大着地濃度
  - ・ 長期平均濃度
  - ・ 短期高濃度
  - ・ 大気安定度
  - ・ パスキル安定度階級
  - ・ 逆転層
  - ・ 上層逆転層発生時
  - ・ 接地逆転層崩壊時
  - ・ ダウンウォッシュ時
  - ・ ダウンドラフト時
  - ・ 有効煙突高
  - ・ 排出ガス対策型建設機械
  - ・ 寄与濃度、寄与率
- 【騒音関連】…………… - 6 -
  - ・ 騒音レベル
  - ・ A特性
  - ・ 騒音レベルの目安
  - ・ 等価騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )
  - ・ 時間率騒音レベル
  - ・ 低騒音型建設機械
  - ・ 回析
    - ・ パワーレベル
    - ・ 透過損失
- 【振動関連】…………… - 7 -
  - ・ 振動レベル
  - ・ 時間率振動レベル
  - ・ 地盤卓越振動数
  - ・ 要請限度（振動）
  - ・ 振動感覚閾値
- 【低周波音】…………… - 8 -
  - ・ 低周波音
  - ・ G特性
  - ・ オクターブバンド
  - ・ AP
- 【悪臭関連】…………… - 8 -
  - ・ 臭気濃度（臭気指数）
  - ・ 特定悪臭物質
- 【水質関連】…………… - 8 -
  - ・ 水素イオン濃度 (pH)
  - ・ 浮遊物質 (SS)
  - ・ 生物化学的酸素要求量 (BOD)
  - ・ 大腸菌群数
- 【土壌汚染関連】…………… - 9 -
  - ・ 付加量、寄与率
- 【地形・地質関連】…………… - 9 -
  - ・ 壮年期地形
  - ・ 段丘面
  - ・ N値
  - ・ 補強土（テールアルメ）工法
  - ・ 斜面安定計算、安全率
  - ・ ボーリングコア
  - ・ 集水面積
  - ・ 活断層
  - ・ 深層崩壊
- 【植物・動物・生態系】…………… - 10 -
  - ・ 維管束植物
  - ・ 特定外来生物
  - ・ 在来種
  - ・ 植物社会学的手法
  - ・ シャーマントラップ
  - ・ ピットホールトラップ
  - ・ ベイトトラップ
  - ・ ライトトラップ
  - ・ 投網
  - ・ タモ網
  - ・ セルビン
  - ・ ウケ
  - ・ スウィーピング法
  - ・ ビーティング法
  - ・ 行動圏解析
  - ・ 高利用域
- 【景観関連】…………… - 11 -
  - ・ フォトモニタージュ法



# 用語の解説

## 【全体】

### ・環境影響評価（環境アセスメント）

大規模な開発事業などを実施する際に、あらかじめ、環境に与える影響を事業者自らが調査・予測・評価し、その内容について、住民や関係自治体などの意見を聴くことにより、環境に配慮した事業にしていくための制度。

### ・方法書

対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法等を記載したもの。事業者は方法書を公告・縦覧し、環境の保全の見地からの意見を有する者は方法書に対して意見書を提出することができる。

### ・準備書

環境影響評価を実施した後、調査の結果の概要及び保全対策などを記載したもの。

事業者は準備書を公告・縦覧し、説明会を開催する。環境の保全の見地からの意見を有する者は準備書に対して意見書を提出することができる。また、知事は、市民等からの意見、それに対する事業者の見解、公聴会等の意見や、長野県環境影響評価技術委員会及び市町村長の意見を勘案して、内容について意見を述べる。

### ・評価書

知事の意見を勘案するとともに、環境の保全の見地からの意見を有する者の意見に配慮して、準備書の記載事項に必要な検討を実施し修正したもの。

事業者は評価書を公告・縦覧する。

### ・環境保全措置

事業が環境に与える影響をできる限り緩和するために行う環境の保全のための措置のこと。調査、予測の結果を踏まえて、実行可能な保全対策の検討を行う。

### ・環境基準

「環境基本法」第16条に基づき、「人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準」として、大気質、水質、地下水質、土壌、騒音について定められている。

また、ダイオキシン類については、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づき、「ダイオキシン類が人の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある物質であることに鑑み、ダイオキシン類による環境の汚染の防止及びその除去等をするため、ダイオキシン類に関する施策の基本とすべき基準」として、大気質、水質(底質も含む)、地下水、土壌汚染について定められている。

## 【事業計画関連】

### ・ストーカ式焼却炉

耐熱鋳物で作った火格子と呼ばれるブロックを組み合わせて燃焼床（ストーカ）を作り、この上でごみを焼却する方式の焼却炉。

### ・計画ごみ質

ごみ質とは、ごみの種類、組成、単位体積重量、三成分（水分、可燃分、灰分）等の物理的性質及び元素組成、発熱量等の化学的性質の総称である。処理施設の計画では、施設の内容に応じて必要なごみ質を設定する必要があり、これが計画ごみ質である。また、その際ごみ質として、平均値（基準ごみ）、上限値（高質ごみ）、下限値（低質ごみ）を設定する必要がある。

### ・ろ過式集じん器（バグフィルタ）

ばいじんを含んだガスをろ材に通すことにより粒子をろ過捕集する装置をろ過集じん装置といい、ろ材として織布または不織布を用い、これを円筒状にして工業用集じんに活用されるものをろ過式集じん器（バグフィルタ）という。

- ・ **触媒反応塔**

窒素酸化物を除去する設備。アンモニアガスを吹込み、触媒の働きで、窒素酸化物を無害な窒素と水に分解する。

- ・ **プラットホーム**

ごみ収集車両が、ごみをごみピットに投入するためのスペース。

- ・ **ごみピット**

搬入されてきたごみを一時的に貯留するための場所であり、ここで、ごみ質を均一にするための攪拌も行われる。

- ・ **ホッパ**

焼却炉の入り口。

- ・ **ごみクレーン**

ごみピットからホッパへごみを投入し、ごみ質を均一にするための攪拌を行うためのクレーン。

- ・ **灰出し設備**

灰出し設備とは、主灰及び各部で捕集された飛灰を取り集め、主灰の冷却や飛灰の薬剤処理等を行い、場外へ搬出するための設備。

- ・ **エアカーテン**

施設の入出口などに速い気流の幕をつくり、内外の空気の移動を遮断する設備である。

## 【大気質関連】

- ・ **静穏**

風速が0.4m/s以下の風の状態をいう。風がこのような静穏状態になると汚染物質は拡散せず滞留しやすくなる。

- ・ **一般環境大気測定局**

自治体等が大気環境を常時監視するため設置した測定局のうち、住宅地などの一般的な生活空間における大気汚染の状況を把握するため設置されたもの。

- ・ **自動車排出ガス測定局**

自治体等が大気環境を常時監視するため設置した測定局のうち、道路沿道に設置されたもの。

- ・ **2%除外値**

測定局ごとの年間値における1日平均値のうち、測定値の高い方から2%の範囲にあるもの（365日分の測定値がある場合は、高い方から数えて7日分の測定値）を除外したなかで、最も大きい測定値を2%除外値という。二酸化硫黄、浮遊粒子状物質の環境基準の評価に用いる。

- ・ **年間98%値**

測定局ごとの年間値における1日平均値のうち、低いほうから98%に相当するもの（365日分の測定値がある場合は、低い方から数えて358番目の測定値）をいう。二酸化窒素や微小粒子状物質の環境基準の評価に用いる。

- ・ **ppm**

濃度の単位で、100万分の1を1ppmと表示する。例えば、1m<sup>3</sup>の空気中に1cm<sup>3</sup>の二酸化硫黄が存在する場合の二酸化硫黄濃度を1ppmと表示する。

・  $m^3_N$

(排ガス量などの) 体積を表す単位で、温度0℃、1気圧に換算した気体の体積。

・ 硫黄酸化物 (SO<sub>x</sub>)

硫黄分を含むごみの燃焼によって生じる。水と反応すると強い酸性を示すため、酸性雨の原因になると考えられている。

・ 窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>)

一般的に燃焼に伴って発生する窒素と酸素の化合物の総称。主に一酸化窒素 (NO) と二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) が大気汚染に関係する。

・ 浮遊粒子状物質 (SPM)

土砂等の飛散、固体物質の破碎、燃焼に伴うもの等、大気中に浮遊している粒子状物質のうち、特に人の健康に影響を与える可能性の大きい粒径10μm (0.01mm) 以下のものをいう。

・ 塩化水素 (HCl)

プラスチック等の焼却の際に発生する。刺激臭を有する無色の気体。水によく溶け、水に溶かしたものを塩酸という。

・ ダイオキシン類

物の燃焼等の過程で非意図的に生成される炭素、水素、塩素等で構成される化合物。塩素の数と配置によって222種類があり、その総称。

・ 降下ばいじん

土砂等の飛散、固体物質の破碎、燃焼に伴うもの等のうち、比較的粒径が大きく重いために大気中で浮かんでいられずに落下 (降下) するもの、あるいは雨や雪等に取り込まれて降下するものをいう。

・ ベンゼン

主に自動車から発生するが、平成12年にガソリン中ベンゼン含有率の許容限度が引き下げられたことにより、近年、大気中濃度が減少している。

・ 放射収支量

地表面が太陽から受け取るエネルギー (太陽放射) から、地表面から天空に逃げていくエネルギー (地球放射) を差し引いたエネルギー量であり、地表面が暖まるか冷えるかを示す指標である。

・ バックグラウンド濃度

工場、自動車などの人為的汚染、火山などの自然的汚染からの影響をともに受けていない状態の濃度。ここでは、計画施設による影響を含まない濃度のことをいう。

・ プルーム式

排煙の移流・拡散を煙流で表現した式で、有風時 (風速0.5m/秒以上) に風や拡散係数、排出量を一定として濃度分布を予測する式である。

・ パフ式

排煙の煙流を一つ一つの煙塊として移流・拡散を表現する式で、無風時 (風速0.4m/秒以下) に濃度分布を予測する式である。

・ 三次元マスコンモデル

地形の影響を考慮することができる三次元解析モデルの一つ。地形データと風データを基に、風の流れを三次元でモデル化する。本事業では、移流パフモデルによりその中を煙が流れた場合の影響濃度を予測した。

・移流パフモデル

風の流れて沿って煙が移流・拡散していく場合の影響濃度を予測するモデル。

・最大着地濃度

排出された汚染物質が、煙源の風下で地上に到着するときの最大濃度。煙源から最大着地濃度までの距離は、有効煙突高さが高いほど長く、大気が不安定なほど短い。

・長期平均濃度

大気汚染の予測を行うにあたって、大気汚染物質の平均的な濃度状態をいい、年間の平均値の予測・評価を行う。

・短期高濃度

大気汚染の予測を行うにあたって、特定の気象条件により生じる大気汚染物質の短時間の高濃度状態をいい、1時間値等の予測・評価を行う。本環境影響評価では、大気安定度不安定時、上層逆転層発生時、接地逆転層崩壊時、ダウンウォッシュ時、ダウンドラフト時を対象とした。

・大気安定度

大気の安定性の度合いを大気安定度といい、基本的に気温の高度分布によって決まるものである。

気温の鉛直方向の変化をみた場合は、通常、地表から高度が高くなるに従って気温が低下し、乾燥した空気が上昇する場合は、その温度の減率が、高度100mあたり0.98℃（湿度を持つ空気の場合は0.6℃）であり、これは乾燥断熱減率と呼ばれる。

実際の大气中では、その時の気象条件等により温度の分布は変化しており、気温の高度分布が乾燥断熱減率に近い状態を中立といい、その他、気温勾配によって、大気の状態を不安定、安定という。大気が安定のときは、汚染物質が拡散しにくく、逆に不安定のときは拡散が大きくなる。大気安定度の不安定時（大気安定度A～C）は、安定時や中立時（大気安定度D～G）に比べて拡散が活発で、近傍の着地濃度が大きくなる状態となる。

大気の状態	気温こう配	出現時期	煙の流れ方	高煙源についての地上濃度
不安定 A、B、C		よく晴れた日中 あまり風は強くない	ループ型…上下に大きく蛇行、時間平均をとると輪郭は点線のようなになる。 	ときどき、高濃度が出現する
中立～弱安定 D、E		常に現れる (特に曇天時や風のやや強いときに多い)	錘型 	平均的 (最大着地濃度は不安定時よりも遠方で出現し、やや低い値となる)
強安定 (逆転層) F、G		風の弱い夜間	扇形…扁平な扇の形状 	地上濃度は非常に低い

・パスキル安定度階級

パスキル安定度階級とは、パスキルが提案した大気安定度の分類のことであり、平坦地の地上煙源を対象とした拡散実験結果に基づいて、拡散パラメータと地上気象観測から比較的容易に入手できる観測値の組合せとの関連から、大気安定度をA～Fの6段階に分類したものである。

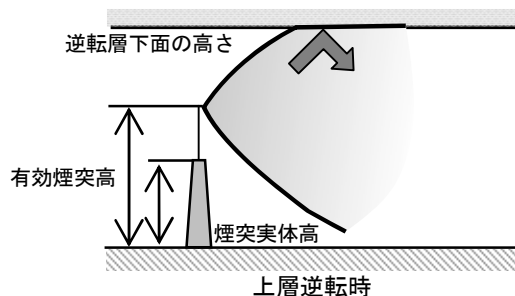
日本の気象観測に合わせた“日本式”の分類表（地上風速、日射量及び雲量から分類）とこれに放射収量を組み合わせて分類する「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」に示される分類表の2種類がある。

## ・逆転層

大気中では通常、高度が高くなると気温が下がるが、逆に高いところに地表よりも温度の高い層ができることがあり、これを逆転層という。逆転層ができると大気にフタをした様な状態になり、逆転層の内側の大気の状態を安定させるため、地上から出たばい煙が逆転層の内側に閉じこめられ、汚染が深刻化する。

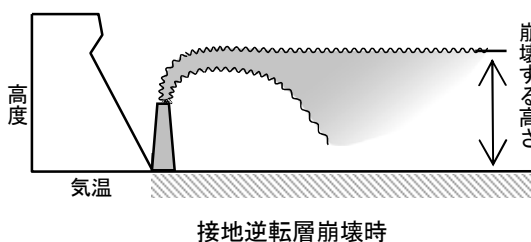
## ・上層逆転層発生時

煙突の上空に気温の逆転層が停滞する場合、煙突からの排ガスは上層逆転層内へは拡散されず、地表と逆転層の間で反射を繰り返し、地上に高い濃度をもたらすことがある。



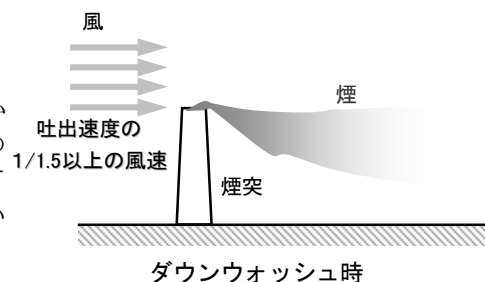
## ・接地逆転層崩壊時

夜間から早朝にかけて形成されていた逆転層が日の出とともに地面付近から崩壊し、不安定層が次第に上昇する形となって上空の煙を地上にひき降ろし、いぶしの状態（フミゲーション）を起し地上に高い濃度をもたらすことがある。



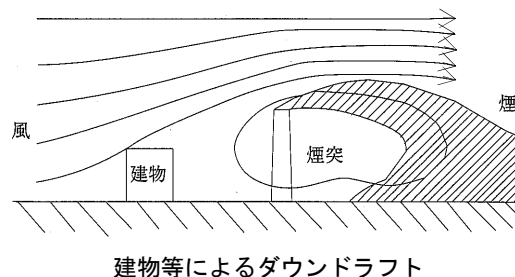
## ・ダウンウォッシュ時

強風は、ばい煙や排出ガスの希釈作用に効果的に働くので、大気汚染は風が弱いとき高濃度となりやすい。しかし、煙突からの排煙は、風が強くなり排出ガス吐出速度の1/1.5以上の速度に達すると、煙突自身の後方にできる負圧域に引込まれて地上に吹き付けられる。この現象を“ダウンウォッシュ”という。



## ・ダウンドラフト時

煙突の高さが周辺の建物等の高さの2.5倍以下の場合に、建物等の影響によって生じる乱流域に排ガスが巻き込まれることがある。この現象を“ダウンドラフト”という。



## ・有効煙突高

実際の煙突の排出口の高さではなく、排煙が大気中を上昇し、最終的に到達する高さをいう。

排煙は、煙突から排出される時には吐出速度による慣性効果や排煙熱量による浮力を持っている。このため、排煙は煙突から出た後も上昇し、周辺の空気と混ざることによって上昇力を弱め、最高到達高度に達することになる。この最高到達高さが「有効煙突高」である。

## ・排出ガス対策型建設機械

大気環境に与える負荷の軽減を目的として排出ガス基準値を満たし、対策がなされた建設機械。平成3年より国土交通省によって排出ガス基準値を満たした建設機械の指定制度が設けられている。

## ・寄与濃度、寄与率

大気質の予測結果では、本事業により付加される濃度を寄与濃度(①)という。また、寄与濃度(①)に現状の環境濃度(②バックグラウンド濃度)を加えた将来濃度を年平均値環境濃度(③=①+②)といい、

年平均値環境濃度に占める本事業の影響割合を寄与率  $(①/③ \times 100)$  とした。

【騒音関連】

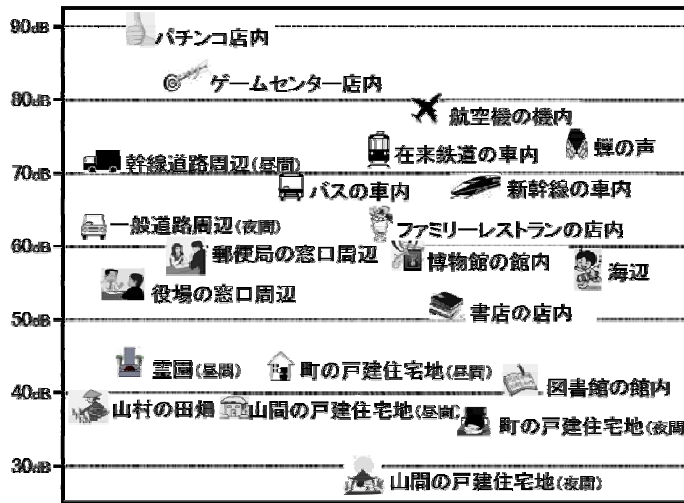
・騒音レベル

計量法第71条の条件に合格した騒音計で測定して得られた測定値で、周波数補正回路A特性で測定した値をデシベル (dB) で表す。

・A特性

周波数補正特性の一つ。人が感じる音の大きさは音の周波数によって異なるため、人が感じる音の大きさに近い音量が測定できるように設定されたものである。補正特性にはA、B、Cの3種類があるが、騒音を測定する場合はA特性で補正した値を使用している。

・騒音レベルの目安

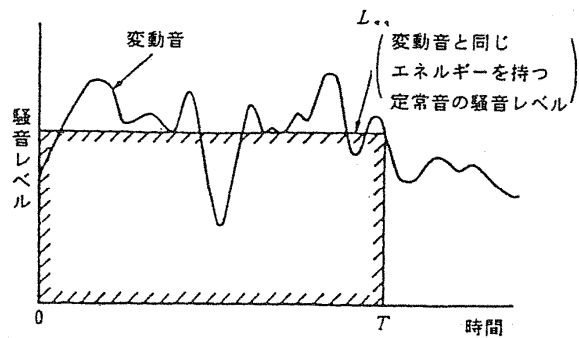


出典：「全国環境研協議会 騒音小委員会」(環境省ホームページ)

・等価騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )

等価騒音レベル ( $L_{Aeq}$ ) とは、測定時間内における変動騒音の騒音レベルのエネルギー平均値を意味し、概念的には右図のとおりである。

この量は、変動騒音に対する人間の生理、心理的反応とも比較的よく対応するとして、一般環境騒音の評価指標として国際的に広く用いられている。

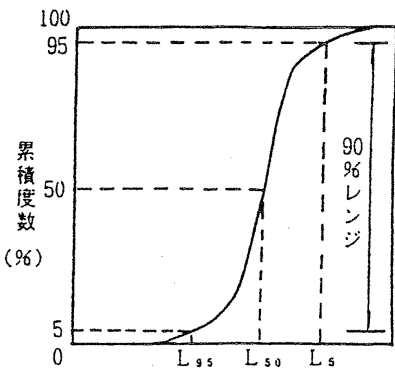


$L_{eq}$  の概念

・時間率騒音レベル

不規則かつ大幅に変動する場合の騒音レベルの表し方の一つで、騒音レベルが、対象とする時間範囲のN%の時間におたつてあるレベルを超えている場合、そのレベルをN%時間率騒音レベル ( $L_N$ ) という。

騒音規制法等では、工場騒音、建設作業騒音などの大きさの決定方法として、90%レンジの上端値 (5%時間率騒音レベル、 $L_5$ ) が採用されている。90%レンジの場合、下端値は $L_{95}$ 、上端値は $L_5$ であり、下端値未満の時間及び上端値をこえる時間はそれぞれ5%である。



騒音レベル (デシベル)



・低騒音型建設機械

建設工事に伴う騒音・振動を抑制し周辺の生活環境の保全を目的として、騒音基準値から6デシベル減じた値を下回る騒音の測定値を得た建設機械。平成9年より国土交通省によって指定制度が設けられている。

・回折

回折とは、音場に塀や建物等の障害物がある場合、その障害物の裏側へも音が回り込んで伝搬していく現象であり、音の波長と障害物の大きさによって変化する。障害物の有無によって生じる到達する音圧レベルの差を回折減衰という。

・パワーレベル

音源から放射された単位時間あたりの音響エネルギー量。

・透過損失

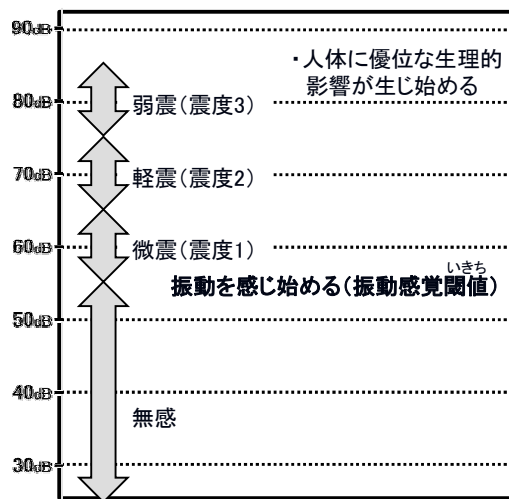
音が物体に入射すると、一部は通りぬけ、残りは吸収・反射される。入射した音と、材料を透過した音との音圧レベルの差を透過損失といい、デシベル (dB) 単位で表わす。透過損失の値が大きいほど遮音性能が優れている。

【振動関連】

・振動レベル

JISに規定される振動レベル計の、人体の全身を対象とした振動感覚補正回路で測定して得られた値であり、振動の大きさ (デシベル) を表すものである。なお、振動感覚補正回路は、鉛直振動特性と水平振動特性の2種類があり、振動の規制基準等はすべて鉛直振動特性の振動レベルとなる。

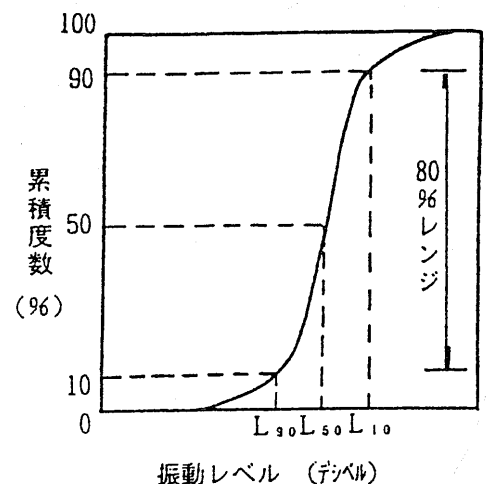
・振動レベルの目安



・時間率振動レベル

不規則かつ大幅に変動する場合の振動レベルの表し方の一つで、時間率騒音レベルと同様の考え方で、対象とする時間範囲のN%の時間にわたってあるレベルを超えている場合、そのレベルをN%時間率振動レベル ( $L_N$ ) という。

振動規制法では、振動計の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合 80%レンジの上端値 (10%時間率振動レベル、 $L_{10}$ ) が採用されている。



## ・地盤卓越振動数

道路交通振動レベルに影響を及ぼす要因の1つである地盤条件を表わす指標で、その地盤固有の主体となる振動数をいう。軟弱地盤では、堅い地盤に比べて小さい値となる。

## ・要請限度（振動）

「振動規制法」において、「市町村長は指定地域内における道路交通振動を低減するために、測定に基づき、道路管理者などに意見を述べ、都道府県公安委員会に対して要請することができる」としている。この判断の基準となる値を要請限度と呼ぶ。

## ・振動感覚閾値

人が振動を感じ始める振動レベル。個人差はあるが、10%の人が感じる振動レベルがおおよそ 55 デシベルとされている。

## 【低周波音】

### ・低周波音

人の可聴範囲以下の空気振動をいう。概ね 1~100 ヘルツ (Hz) の音を低周波音と呼び、その中でも、20 ヘルツ (Hz) 以下の音を超低周波音と呼ぶ。

### ・G 特性

人が感じる音の大きさは音の周波数によって異なるため、人が感じる大きさに近い値が測定できるように設定されたものである。G特性は、低周波音による心理的・生理的影響の評価特性として、ISOで規格化されている。

### ・オクターブバンド

音の音色（周波数特性）を定量的に表すため、音の高さ（周波数）を規則的に分解し、配列したもの。1/1 オクターブバンドとは、31.5Hz、63Hz、125Hz、250Hz、500Hz、1KHz、2KHz、4KHz、8KHz、16KHz を中心とする周波数を表したもののことであり、1/3 オクターブバンドとは、1 オクターブバンドのそれぞれ間を3分割した周波数で表したものである。

### ・A P

オールパスの略であり、各バンドの音圧レベルを合成したもの。

## 【悪臭関連】

### ・臭気濃度（臭気指数）

官能試験法による臭気の数量化方法のひとつであり、対象空気を無臭の正常な空気希釈したとき、ちょうど臭わなくなったときの希釈倍率を臭気濃度という。

臭気指数は、臭気濃度を基礎として、次式により得られる。

$$(\text{臭気指数}) = 10 \log (\text{臭気濃度})$$

### ・特定悪臭物質

悪臭防止法において、不快なにおいの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質として、アンモニア、メチルメルカプタン等22物質が定められている。

## 【水質関連】

### ・水素イオン濃度（pH）

水の酸性あるいはアルカリ性の程度を示す指標であり、水素イオン濃度の逆数の常用対数をpH単位としてあらわすものである。pH7で中性、それ未満は酸性、それを超えるものはアルカリ性を示す。

### ・浮遊物質（SS）

水中に浮遊する物質の量のことである。各種排水からの不溶性物質などからなり、数値が大きいほど

水質汚濁が著しく、水の濁りの原因となる。SSが多くなると魚類の窒息や水中植物の光合成阻害など、水中生物への影響があらわれる。

- ・ **生物化学的酸素要求量（BOD）**

水中の有機物を微生物によって分解するときに必要な酸素の量をいい、水質汚濁の指標とされ、水質汚濁が著しいほど数値が大きくなる。河川の汚濁状況を表すときに用いられる。

- ・ **大腸菌群数**

大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の数のことをいい、水中の大腸菌群数はし尿汚染の指標として使用される。特に夏季に基準を超過することが多く、長野県が実施した平成25年8月の調査では基準値を下回ったのは80地点中1地点のみであった。

## 【土壌汚染関連】

- ・ **付加量、寄与率**

土壌汚染の予測結果では、本事業により付加される汚染物質の量を付加量(①)という。また、付加量(①)に現状の土壌中の濃度(②バックグラウンド濃度)を加えた将来濃度を予測結果(③=①+②)としており、将来濃度に占める本事業の影響割合を寄与率(①/③×100)とした。

## 【地形・地質関連】

- ・ **壮年期地形**

地形の浸食輪廻(りんね)で、幼年期の次の時期にみられる地形。浸食が進んで山の形が陰しくなり、V字谷や急斜面の入り組んだ地形をいう。

- ・ **段丘面**

河川、海、湖に沿って、あるいは谷筋に沿って分布する階段上の地形。ほぼ水平で平坦な地表面(段丘面)とその前方あるいは背後の急傾斜な崖(段丘崖)からなる。過去の水面(河川、海、湖など)に関連して水中で形成された平坦面がその後離水した地形をさし、河岸段丘、海岸段丘、湖岸段丘などに区分される。

- ・ **N値**

地層の硬軟を示す値。この値が大きくなるほど地層は硬い。中高層建築物の基礎は、一般的にN値30～50以上を支持層としている。調査は、標準貫入試験により行う。

- ・ **補強土（テールアルメ）工法**

盛土材料中に補強材としてストリップと呼ばれる帯鋼を敷設し、ストリップと土の間の摩擦を利用して、盛土を垂直に高く築き上げることのできる工法。

- ・ **斜面安定計算、安全率**

斜面の高い部分は重力によって低い部分に移動しようとし、その土が持つせん断強さよりも大きくなると崩壊が起きる。このすべり面の形は、地盤や斜面の形状などによって異なるが、盛土などのように土質が均一で単純な斜面では、円弧すべり面を仮定した円弧すべり解析法による安定計算が行われる。

安定計算では、安全率が求められるが1を越えるときは安定であるが、1未満のときは危険といえる。本事業では、安全率を「道路土工 切土工・斜面安定工指針」、「宅地防災マニュアル」など設計に基づくマニュアルを基に設定している。

- ・ **ボーリングコア**

ボーリング調査において、地層から抜き取った円柱形の試料。

- ・ **集水面積**

集水面積とは、降雨が降ったときにその場所に流下してくる地域の広さをいい、稜線で囲まれた範囲をいう。

## ・活断層

一般的には最新の時代（第四紀後期）に活動（ずれ動き）を繰り返し、将来も活動の可能性のある断層。

## ・深層崩壊

山地などの傾斜地が豪雨などにより、深部から岩盤ごと崩壊する現象。土石流としてそのまま流れ下ったり、天然ダムを形成して決壊・氾濫という二次災害を引き起こしたりする。

## 【植物・動物・生態系】

### ・維管束植物

維管束を持つ植物のことである。維管束とは水・ミネラル・光合成産物を植物体全体に輸送するための組織であり、木部と師部からなる。シダ植物門、ヒカゲノカズラ植物門、裸子植物門、被子植物門を含む。植物の内からコケ植物（コケ類）や藻類を除いた群である。

### ・特定外来生物

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づいて、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれのあるものの中から指定される。

### ・在来種

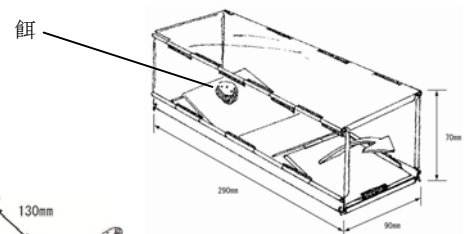
ある地域に現在生育する生物のうちで、昔から存在していた種。他地域から人為的に持ち込まれた生物である、外来種に対する用語として用いられる。

### ・植物社会学的手法

植物社会学とは、植生群落を調査し分類、体系づけることを行う。主な調査手法として、ブラウンブランケの植物社会学的手法があり、コドラート（方形区）を設定し、階層区分毎に出現する種とその優先度及び群度を判定して植生の状況を把握する。

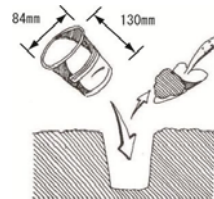
### ・シャーマントラップ

ネズミ類など小型哺乳類を捕獲調査するためのアルミ製の生け捕り罠。折り畳み式で、内部にピーナッツ等の餌を設置して誘引する。



### ・ピットホールトラップ

ジャンプ力の弱い種を捕獲対象とする際には、ピットホールトラップ（落とし穴）を使用する。小型のバケツやプラスチックコップ等を地中に埋設し、地表面で活動する生きものを捕獲する方法である。



### ・ベイトトラップ

地面にえさの入ったコップなどを埋めてそこに落ちた昆虫類を採集する方法。アリやゴキムシの仲間など地上を歩く昆虫類を対象とした調査方法である。



### ・ライトトラップ

夜間にライト（明かり）をともしてそこに集まる昆虫類を採集する方法。主にガや甲虫の仲間を対象とした調査方法である。



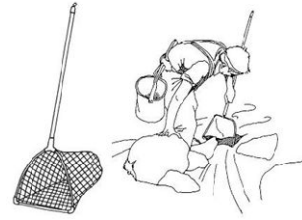
### ・投網

水深の浅い場所や開けた場所にいる魚の捕獲に有効。魚の集まっていると考えられる場所を判断して、魚に気付かれないように静かに近寄り、サッと投げて、ゆっくりと魚を引き寄せせる。



#### ・タモ網

水際に生育する植物や、河床の石の下、泥や砂に潜っている比較的小さな魚の捕獲に有効。植物帯付近では、隙間のないようにタモ網を固定して、足で踏みながら網の中に追い込む。石の下の魚を捕らえるには、下流側にタモ網を固定し、石を動かしながら魚を追い込む。



#### ・セルビン

釣り用の練り餌を中に入れて数時間程度水中に沈め、中に入った魚を回収する方法。



#### ・ウケ

水中に沈めて魚や底生動物を捕らえるための漁具の一種。竹や木材などを使って、魚などが入りやすく、出にくい構造に作った籠。大きさや形状は捉える対象に合わせて多岐にわたる。



#### ・スウィーピング法

草の中をすくうように同じ場所で網を数回振って昆虫類を捕獲する方法。

#### ・ビーティング法

枝などをたたいてそこから落ちる昆虫類を下で受けて捕獲する方法。

#### ・行動圏解析

調査範囲をメッシュで区分して、猛禽類の出現記録のあるメッシュを囲んで行動圏を求め、飛行軌跡やとまり場所などをすべてメッシュ図に落とす。メッシュ当たりの出現回数をメッシュごとの観察日数（あるいは観察時間）で除し、相対的な出現値を求める。このうち相対的に出現値の高い地域を高利用域とする。

#### ・高利用域

行動圏内にある、つがいが高頻度で利用する範囲で、重要な採食地やそこへの移動ルートとなっている範囲を含む。この部分に事業が影響を与えることは、採食環境を悪化させることにつながる。

#### 【景観関連】

##### ・フォトモンタージュ法

現況写真に、計画施設等のパースを合成して将来景観図を作成することにより、現況景観と将来景観とを対比する手法である。